

に歯取り唐人がいると記されているが、唐人とは外国人であり、歯抜き師は常民と異なる階層と推察される。このため内科的歯科医療と、血を伴う外科歯科医療とは異なった階層と職種で行われていたと考えられる。

技術的歯科医療について、現在最古の顎粘膜吸着義歯は和歌山願成寺に残る1538年に亡くなった仏姫の木床義歯である。この研究報告は1976年であるが、それ以後進展はない。仏師が作成したという推測はあるが、それについての文献は見つけられていない。『二中歴』第十三巻に一能歴があり、網野善彦氏はこれを①官人的職能民、②官人に所属する職農民グループ、③芸能民、呪術民など、④普通の人とは異なる行為をする人、に分類しているが、医師と陰陽師は①に分類されており、仏師や大工は②に分類されている。『周礼、考工記』には「知者ハ物ヲ創リ、巧者ハ之述ベ之ヲ守ル。世ニ之ヲ工トイフ。百工之事皆聖人之作也。」とあり、職能民は「道々の者」として低い地位にあるが、木床義歯の制作者は医師より技術的

な傾向に強い職能民と考えることができる。

予防的・習慣的歯科医療とは主に庶民が日常的に行う楊枝や口漱ぎなどを指し、『日本霊異記』『九条殿御遺戒』（藤原師輔）では寺や貴族が楊枝を使っているが、『極楽寺殿御消息』（北条重時）をみると、武士階級に楊枝が広まっているのがわかる。『医心方』にみられる歯髓焼勺療法は戦後の沖縄の離島（沖縄県座間味村）で民間療法である「ちみやち」として残っていた。

3. 現代の歯科医師との関係

近世に入り、中世の異なった職種による歯科医療はそのまま引き継がれ、特に技術的歯科医療として木床義歯を制作する入れ歯師が職能民として近世に確立したと考える。幕末から明治にかけて欧米の歯科医療、特にDDS（歯科外科医）の思想が伝来すると、それまで異なった職種で行われていた歯科医療は、結果として西洋医学を主体とした近代的歯科医師として統合されたと思われる。

（令和4年12月6史学会合同例会）

博多人形師と解剖学

——博多人形師と九州帝国大学福岡医科大学校 解剖学教室 櫻井恒次郎教授 “美術解剖学”——

丸山マサ美

【緒言】

初期の解剖学的知識のほとんどは、宗教的または哲学的な質問のために発見され、バビロニア人は臓器で見つけたものに基づいて予測するために動物を解剖し、古代ギリシャ人は解剖学を使って魂の位置を熟考した。ギリシャ生まれの医師ガレン（西暦129–216年）の影響のある解剖学的研究は、ローマ帝国で人間の解剖が禁じられていたにもかかわらず、何百年もの間、ヨーロッパ医学を支配した。実際の解剖は、助手によって行われ、しかし、早くも1300年代には、ヨーロッパの大学は、医学生に公的な人間の解剖を提供し始めた。実際の解剖は、助手によって行われ、講師は、ガレンまたは、他の権威によるテキストから読み

取ったり議事録を観察していた。1500年代のヨーロッパのルネッサンスの間に初期の古典ギリシャ話のテキストに含まれる知識に新たな関心があった。解剖学自体の研究は、解剖のための手順を含む1531年のガレンの解剖学の手順の新しい翻訳を含む、いくつかの主要な作品の再発見によって促進された。実用的な解剖を通して、解剖学者は、そのような古典的なテキストのより良い理解を達成する事を目指した。これはフランドルの医師アンドレアス・ヴェザリウス（1514–64）が、彼の結果をガレンのような確立された権威の仕事と比較した時の意図であった。実際には、ヴェザリウスは多くの不正確さを発見した。ファブリカの正式書名は、De humani corporis fabrica Libri septem, 日

本語に訳すれば「人体の構造についての7つの書」という事になる。著書はヴェザリウス、スイスのバーゼルにあったオポリスス印刷所で作成され、1543年6月に発行された。日本最古ファブリカ復刻版(縦43cm、横29cm、700頁、厚さ8cm)は、原学園 原寛理事長が所有・保管する。

【研究目的】

本稿の研究目的は、『博多人形沿革史』に見る大正時代の博多人形師と九州帝国大学医科大学解剖学教室初代櫻井恒次郎教授の書籍『美術解剖学』から、大正期の博多人形師と解剖学の関係を紐解く事にある。

【研究方法】

書籍『美術解剖学ノ栞』に見る博多人形師の解剖学講義・実習の実態に関する資料を収集した。福岡市博物館関係資料は、特別観覧・写真撮影。【倫理的配慮】として、『博多人形史沿革』写真は、研究目的を文書説明し、現物写真の所有者(遺族)から、写真の研究使用に関する理解を得た。福岡市博物館『白水宗邦資料骨格標本』は、福岡市博物館「特別観覧許可証」を得て、写真撮影・熟覧した。

【研究結果・考察】

1. 博多人形師と美術解剖学

2022年4月12日、『矢田一嘯先生記念展覧会(写真1)』は、故小林貞子遺族より研究の目的を文書で説明し研究使用の承諾を得た。同年6月3日、福岡市博物館訪問。福岡市博物館主任学芸主事末吉武史氏より、博多人形師と大正期の解剖学に詳しい山村信榮氏を紹介受けた。資料(写真1)は、博多人形作家集団の『温故会』の活動の一部である。洋画家矢田一嘯は、講師として、『温故会』に関与していた外科医の京都帝国大学福岡医科大学(後の九州大学)中山森彦博士教授の紹介により、同大学解剖学専門の櫻井恒次郎教授にも参与を求めた。大正3・4年、組合員は、同大学解剖学教室にて、講義・実習19回(1年目『骨格』2年目『筋肉』)を受講。九州史学研究会資料「大学と職人」には、大正元(1912)年、博多人形師が、精巧な博多人形作りの為、“美術解剖学”を講師依頼したと記述されている。一方では、講義をしていた矢田が、同大学の依頼を受け、解剖図を描いていた関係から、懇意にしていた博多人形師への『解剖学特別講義』が、矢田から櫻井教授に依頼したともある。その経緯は、不確かであるが、大正元年



写真1 『矢田一嘯先生記念展覧会』、於福岡市西中州、大同生命会館社屋開催、櫻井恒次郎教授(左2番目)と博多塑像研究会、出典：大正6年5月、福岡日日新聞

(1912) 書籍『美術解剖学ノ栞』には「……(略) 果シテ聴講者諸氏ノ言ハルル通りニ利益ガアツタカドウダカ知ラナイガ、兎ニ角先項ノ博多人形原型品評会ニ行ッテ見タラ、餘程筋ヤ骨ノ見エル作品ガ並ンダ居タノデ、自分ハ少ナカラズ嬉敷感シタノダッタ……(略)」と記述がある。

2. 解剖学 櫻井恒次郎教授と日本画家 矢田一嘯

櫻井恒次郎先生は、明治34(1901)年、東京帝国大学医科大学を卒業し、ドイツ留学からの帰国後、同39年に解剖学第2講座教室の教授となった。櫻井氏は、研究の実地応用にも尽力、博多人形師の依頼に応じた。大正6年5月、『矢田一嘯先生記念展覧会(写真1)』は、関係性を知る上で、極めて貴重な資料となる。

【むすびにかえて】

人形作家集団の「温故会」の活動は、業界外の知識人を引き入れて、明治期末に活発に展開しており、京都帝国大学福岡医科大学(現在の九州大学)中山森彦博士の紹介により、同大学の解剖学が専門の櫻井恒次郎教授が参与し、大正3年、4年に組合員の一部が、同大学解剖学教室にて実習を伴う講義に参加した。現在、当時の博多人形師白水熊次郎の子にあたる白水宗邦氏の元に、熊次郎の手による約二分の一大の半身の骨格標本が残されており、頭蓋骨は本物の持つ多孔質の部分や縫合線などが、一見本物と見間違うほどに細工され、歯などは差し歯とは思えるような表現がなされている。中ノ子タミ家にも同様のものが残されており、参加者が受講内容をもとに制作したものと考えられる。近代博多を代表する博多人形師小

島与一、原田嘉平らも解剖学講義・解剖実習を行い、5名の福岡県無形文化財の一人となった。博多人形は、人体解剖実習を機に写実的な表現を志向するようになり玩具から美術品へとジャンルの昇華を遂げたと評価されている。

大宰府市教育委員会文化財課職員山村信榮氏は、矢田一嘯は、洋画家として先達のミケランジェロやレンブラントの美術と解剖学の関係を博多人形に持ち込んだのではないかと推察する。本研究は、本学解剖学教室の未整理器物資料との関連性の解明が重要となる。

謝 辞 本調査にあたり、福岡市博物館 有馬學館長、末吉武史主任学芸主事、大宰府市教育委員会文化財課職員 山村信榮先生、九州大学医学図書館職員文献調査係 詫間 沙由香女士・泉 愛女士・岩崎 崇宏史氏、Wolfgang Michel九州大学名誉教授にご指導・ご支援を賜った。博多人形に関する資料は、博多人形店(後藤人形・増屋)、博多人形沿革史編纂員委員会：博多人形商工業協同組合の資料提供となる。ここに深謝を申しあげる。

主な参考文献・参考資料

- ・博多人形沿革史、博多人形沿革史編纂委員会、博多人形商工業、協同組合発行、平成13年3月・櫻井恒次郎著、美術解剖学ノ栞、南江堂書店、大正元年11月
- ・池嶋洋次、アジアのなかの博多湾と箱崎、大学と職人、九州史学研究会、pp.196-197、2018年10月・原田種夫、人形と共に65年 小島与一伝、1972年・福岡日日新聞、大正6年5月5日、5月20日、5月21日記事、他写真等は、紙面制約により割愛させていただいた。

(令和4年12月六史学会合同例会)

研究教育の「場」をめぐって～『洋学史研究事典』編集補遺

海原 亮

洋学史学会では、設立30周年を記念し『洋学史研究事典』を企画・刊行した(思文閣出版、2021年10月)。幸い学界から好評を得て、日本医史学会より第34回矢数医史学賞を受賞することが出

来た。編集委員のひとりとして、深く感謝を申し上げる。

本事典は「研究篇」「地域篇」2部構成とし、若手を主たる読者に想定、洋学史研究の今後の方向